

「ふるさとモット学び塾」について

石川県立生涯学習センター
専門員 三田 耕平
 (社会教育グループ)

一 はじめに

「生涯学習センター」の役割について平成二年中教審答申「生涯学習の基盤整備について」では、六つの中の最後に、「地域の実情に応じた、必要な講座等を主催すること」と示している。これまでも、当センターでは、県民に学習機会を提供する場として「いしかわいきいき講座」を開催してきたが、平成二十五年度は、新規事業として「ふるさとモット学び塾」を開講した。ここでは、その主な取り組みについて紹介したい。

二 「モット学び塾」の概要

「ふるさとモット学び塾」は、子どもから大人までの幅広い世代の県民の皆様が、ふるさと石川に対する愛着と誇りを深めていただくことができるよう、石川に関する文化、歴史、自然等について、大学の先生など、その道の専門家から直接学ぶことができる講座として、開設した。

本県では平成二十三年に教育施策の推進を図るため、「石川の教育振興基本計画」を策定した。

その基本計画の一つに「学びの気運に満ちた生涯学習社会づく

り」を掲げ、県民が心豊かに生きるための学習機会の充実などを推進していくこととしている。本講座を通して、県民に、ふるさと石川への興味・関心を高め、石川への愛着と誇りを、より一層、深めていただきたいと願っている。

「ふるさとモット学び塾」は、「ふるさとふれあい講座 本多の森会場」、「ふるさとふれあい講座 現地コース」、「ふるさと発見出前講座」の三つのコースから成っている。次に、それぞれについて詳しく述べてみたい。



三 ふれあい講座「本多の森会場」

平成二十四年度までの「いしかわいきいき講座」を受けた、石川県立生涯学習センター(石川県本多の森庁舎)を会場にした講座であ

る。定員を前年度の八十名から百名とし、実施回数も二回増やし、十回とした。うち四回は、土・日曜日に開催した。

全国で活躍されている石川県出身のパティシエ 辻口博啓氏を皮切りに、十名の講師陣による石川の文化・歴史・自然等をテーマとした全十回の講座を開催した。十回全ての講座を受講された方は、十名となり、閉講式で「修了証書」を授与した。

受講者の中には、「自分はかなり詳しく知っているという自信があったが、講演で聴いた内容は、初めてのことばかりで、非常に驚いた」との声も聞かれ、専門の講師による講演は、知っているようで知らなかった石川の魅力を再発見できる内容であった。また、講演は過去の歴史や人、文化、自然等の遺産についてのみならず、現在ふるさと石川のために様々な形で活躍する人としての生き方、そして未来への展望を示してくれる内容であり、受講者を勇気づけ、これからふるさと石川でどう生きていけばよいかを示唆してくれる内容であった。また講演の最後には、受講者からの質問に講師が答えてくださる

など、講師との「ふれあい」も生まれ、和気藹々とした雰囲気が進められた。

ふるさとふれあい講座「本多の森会場」

回	演題	講師	回	演題	講師
1	県外から見た石川の魅力	パティシエ 辻口 博啓氏	6	北前船と海の百万石	石川県金沢城調査研究所 所長 木越 隆三氏
2	加賀友禪の道と私の道	加賀友禪作家 由水 十久氏	7	県産農林水産物のブランド化	石川県農林水産部生産流通課 課参事 寺崎 信二氏
3	霊山白山の自然環境	石川県白山自然保護センター 研究主幹 東野 外志男氏	8	金沢戦国社会と一向一揆	金沢学院大学 教授 東四柳 史明氏
4	戦国武将の国づくり ~前田利家の活躍したところ~	北陸大学 教授 長谷川 孝徳氏	9	能登・加賀の動物	石川県自然史資料館 館長 水野 昭憲氏
5	珠洲焼を生んだ歴史風土	珠洲焼資料館 元館長 西山 郷史氏	10	加賀の茶の湯	石川県茶道協会 代表幹事 大島 宗翠氏



四 ふれあい講座「現地コース」

「いしかわいきいき講座」は、全てセンターを会場に行なっていたが、会場を県内各地に移し、直接石川の歴史や文化、自然に触れ、ふるさと石川の魅力を深めていただくことをねらいとする講座が「現地コース」である。

五名の講師を迎え、鳥越、羽咋、七尾、金沢東山、加賀橋立を訪ねた。五回のうち、三回を土・日曜日に実施した。

石川県内各地の史跡、偉人ゆかりの地を訪ね、貴重な文化遺産などを目にしながら、専門の講師から直接、歴史や文化について奥深い解説を聴くことができた。現地を訪ね、遺構や景観を見て、講師の話しを聴くという体験は、遠い昔へと旅しているようでもあり、現地訪問を通してしか体感できない魅力的な講座となった。また、講師

や訪問施設の方々のご厚意により、普段は目にするのできない貴重な史料等を特別に見せていただくことができた講座もあり、受講者からも感激の声が多く、非常に好評であった。

当センターとして、直接現地を訪ねての講座は十年振りの企画であったが、応募者も多く与えられ、予定の定員二十五名を三十五名に増やして実施した。しかし、それでも抽選漏れとなる方が多く、「同じ講座を二度実施できないか」、また「定員をもっと増やしてほしい」との要望をいただくほどの人気であった。

ふるさとふれあい講座「現地コース」

回	演題	講師
1	白山信仰と加賀の一向一揆ゆかりの地を訪ねて	小松短期大学 教授 由谷 裕哉氏
2	能登守護島山氏と長谷川等伯を訪ねて	金沢学院大学 教授 東四柳 史明氏
3	前田利家と能登ゆかりの地を訪ねて	金沢学院大学 教授 東四柳 史明氏
4	金沢の情緒深い茶屋街と卯辰山麓寺院群を訪ねて	金沢美術工芸大学 名誉教授 黒川 威人氏
5	「海の道」に挑んだ男たちの足跡を訪ねて	橋立町さわかやガイド 代表 宮本 昭夫氏

五 ふるさと発見出前講座

こちらでも、会場を県内各地へと移した講座で、これまでは一般の方を対象とした講座のみであったが、小中学生にも対象を広げ、十五小中学校・十公民館に講師を派遣し、講座を出前する新しい試みである。

石川について各学校・公民館が独自に選んだテーマに応じた専門の講師を派遣した。地域の生き物、柴山潟、打木源助大根の生みの親松本佐一郎、金沢三文豪、加賀百万石と前田家、九谷焼、金沢漆器と加賀蒔絵、各地域の郷土料理、加賀友禅、長谷川等伯、白山信仰の歴史、能登幕府巡見使、里山里海の保全等、各地域に密着したテーマが多く取り上げられた。各地域の子ども達を教える先生、各地域の学びのニーズを知る公民館職員の求めに細かく対応することができ、また学校の一教室・公民館の一室から、体育館のような広い会場まで様々な会場で、様々な年齢の対象者に合わせたお話しができる講師を派遣することができ、好評をいただいた。

平成二十五年度の実施状況を見ると、小中学校では十五件中七件が、公民館では十件中九件が金沢市外での開催となった。「石川の隅々にまで」の思いから、平成二十六年度は、公民館について十講座を増やし、二十公民館とする予定である。大いに活用していただきたいと願っている。

六 終わりに

受講者のアンケートからは、「ふるさと石川についてモット学びたい」という意欲は非常に高く、学習需要についても多様化と高度化が進んでいることが感じられる。今後とも県民のニーズに応え、「いつでも、だれでも、どこでも」生涯学習活動を行える環境を整備し、学習機会を拡大し、県民の生涯学習活動をさらに活性化するために一層充実した活動をしていきたいと願っている。

平成二十年中教審答申「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について」の循環型社会の構築を目指して「では、各個人が自らのニーズに基づき学習した成果を還元し、社会全体の持続的な教育力の向上に貢献する」といった知の循環型社会を構築することの重要性が指摘された。生涯学習センターの役割に、学習成果が活用され「社会に還元」されることの重要性が増してきた。

折しも、平成二十七年春には北陸新幹線金沢開業を控えている。本講座の受講者には、学習成果を活かして、ふるさと石川の魅力を多くの方々へ紹介するおもてなしの役割を担っていただくことを、強く期待するものである。さらに、今後このような方のためにより充実した内容の講座を提供していきたいと考えている。